

金ヶ瀬地区の人口と世帯数

令和2年6月30日現在（前月比）

人口 3,587人 (+15)

男性 1,769人 (+4)

女性 1,818人 (+11)

世帯数 1,360戸 (+2)

こんにちは！ 金ヶ瀬公民館です

2020
第336号
7月

金ヶ瀬放課後子ども教室が開校

新型コロナウイルス感染予防のため、延期されていた金ヶ瀬放課後子ども教室ですが、6月24日、開校式が行われました。

子どもたちは「ただいま！」と元気な声で来館し、マスクの着用はもちろん、手指の消毒、検温を行った上で受講しました。



開校式では教育長や校長先生、放課後子ども教室のスタッフの挨拶を聞いた後、厚紙で紙ひこうきを作り、輪ゴムで飛ばして遊びました。



自分で作った紙ひこうきを勢いよく一斉に飛ばしました

◎7月・8月の休館日

7月20日、27日・8月3日、11日

◎図書室の休館日

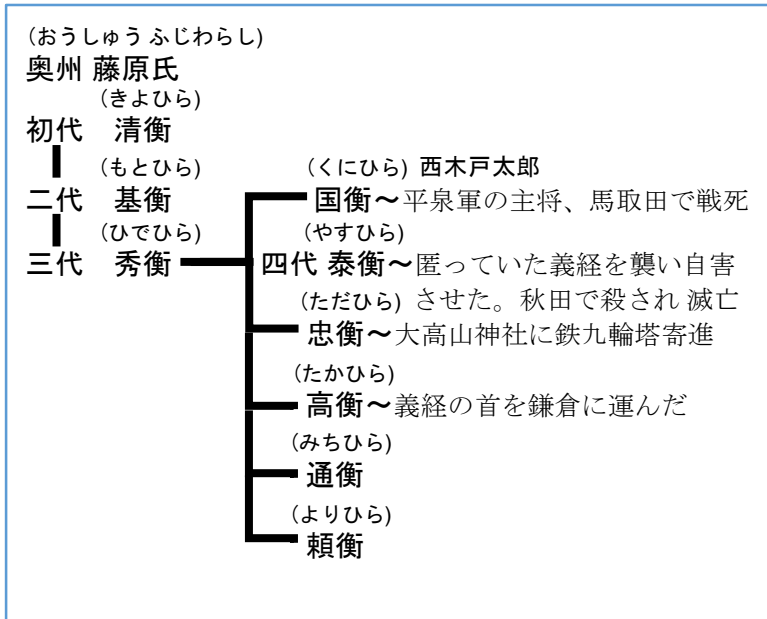
土曜日、日曜日、月曜日

令和元年7月15日発行/大河原町金ヶ瀬公民館 TEL52-6635 FAX52-6736

金ヶ瀬公民館の歴史探訪 第3回 文治の役とその遺跡

金ヶ瀬の歴史の中で、特に大きな出来事として挙げられるのが、「文治の役」における「新開の馬取田」にまつわる話です。日本史において有名な人物「源頼朝」「源義経」そして「奥州藤原氏」が登場する「奥州合戦・文治の役」の際に、我が郷土で起きたことを改めて振り返ってみたいと思います。なおこの話は、鎌倉時代に書かれた歴史書「吾妻鏡」、寛保元年(1741年)に出版された「封内名蹟志」に記され現代に伝えられ大河原町史などで紹介されたものです。

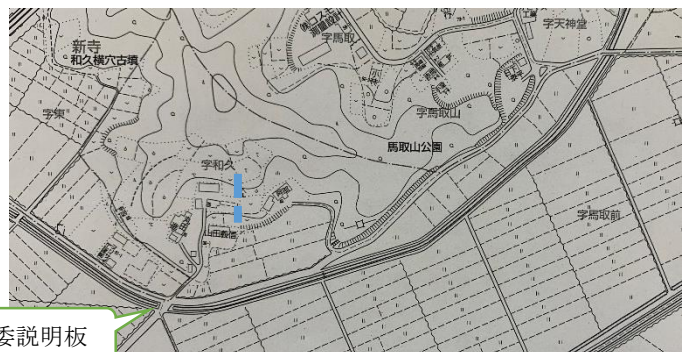
まず登場人物は下の「奥州藤原氏の系図」をご覧ください。平泉に黄金文化を築いた藤原三代「清衡・基衡・秀衡」に次ぐ四代「泰衡」が、源平の合戦の後、兄「源頼朝」から逃れ平泉に匿われた「源義経」を、朝廷と頼朝の強請に屈して衣川館に襲い自殺に追い込んだのが文治5年(1189)4月30日。頼朝が奥州藤原氏を討つため、文治5年(1189)7月19日鎌倉から出兵して「奥州合戦(征伐)・文治の役」は始まりました。



(みなもとのよりとも)
源 頼朝 ～平安時代末期から鎌倉時代初期の武将、鎌倉幕府の初代征夷大將軍。治承4年(1180年)、平家討伐の挙兵、文治元年(1185年)3月24日壇ノ浦の戦いで平家は滅亡。文治3年(1187年)10月、藤原秀衡の没後、奥州平泉に弟源義経(みなもとのよしつね)が潜伏するのを知ると秀衡の子息に義経追討宣旨を下すよう朝廷に奏上、宣旨は下され、4代藤原泰衡は鎌倉方の圧力に屈し、文治5年(1189年)閏4月30日義経を襲い自害に追いやった。義経を匿った藤原泰衡を追討する「奥州合戦」(文治の役)を起こし勝利した。

8月7日、「頼朝」の率いる二十八万の大軍は、福島県伊達郡国見町の阿津賀志山(厚樫山)の麓まで進撃して来た。迎え撃つ平泉軍の総大将は「泰衡」の異母兄「西木戸太郎国衡」二万騎、土塁を築くなど防戦に努めたが、10日早朝の戦いで敗れ北へ敗走した。「国衡」は、その日の夕刻、芝田郡(柴田郡)の大高山神社の北方路にさしかかった。その後を追い迫ってきたのが「頼朝」の家臣「和田義盛」の軍勢である。「国衡」は名馬「高楯黒」にまたがり大高山神社前の田圃道を馳け抜けようとしたが「義盛」が声をかけて戦いを挑んだ。挑まれた「国衡」は名乗りをあげて馬をかえし互いに弓に手をかけた。一瞬早く「義盛」の矢が、構えていた「国衡」の甲を射て腕に当たった。「国衡」痛みに耐えかねて立ちすくんだ。その時「頼朝」の家臣「畠山重忠」の大軍が馳せ来て、声をあげて「国衡」に迫った。この声に驚いた馬が道から深田に入り込み、なんと鞭を加えても、のめり込むばかりでついにははしがれなかった。「重忠」軍は「国衡」の姿を見つけると、すかさず深田の中で戦いを挑み、しばし渡り合ったが、孤軍奮闘空しく「重忠」の従者「大串次郎」の一太刀で「国衡」はあえない最後をとげた。翌11日、葦神山・千塚方面を守っていた平泉軍の「照井太郎高直」の軍勢は、押し寄せて来た「頼朝」勢と壮絶な戦いをまじえたが、ついに「照井太郎」もこの地で戦死してしまった。

この日の午後には、「源頼朝」は金ヶ瀬から大河原を経て船迫に到着して宿泊、この夜、「国衡」勢の武将等の首実検をして、戦功者に賞詞を与えている。「国衡」が戦死した新開の深田は「馬獲田～馬取田」と呼ばれるようになり、付近には霊を弔う「国衡塚」も築かれたと記録に残っている。...新開と小山田の間の小丘陵が「馬取山」その前の平地に「馬取前」の字名がついていて、835年の時を経て今は一面の水田に変わっている。



教委説明板